

# ウォーカー泉先生への質問と先生からのご回答

シンポジウムで出されたご質問に対し、早速、ウォーカー先生からご回答をいただきました。

- 初級者向けビジネス日本語教育はお考えですか。メリットがあると思いますか。
- はい、大学生の場合、卒業後は社会人になるので、それを意識して教育することは大切だと思います。メリットとしては、日本語は人間関係や場面に応じた使い方が必要だということへの理解が初級段階から深めていけると思います。
- 敬語の指導の中で一番力をいれているところは、どのようなことでしょうか。
- 敬語の使用は相互尊重に基づいたものであるということです。
- 「ビジネス日本語」の教科書で時々違和感を感じることがあります（例：丁寧すぎる）。授業の中で、「実際はこうに言っている」と別の表現を提示することはありますか。（私は30年間ビジネスの世界にいました。）
- 教科書に提示されている表現は、「ビジネス日本語」に限らず、どんな人間関係の相手とどんな場面で使われるものであるのか厳密に提示することができないため（例えば、部長といっても、大企業と零細企業では部下との距離も異なるでしょうし、どの程度親しい関係にあるのかも提示できにくい、また人によっても丁寧さが異なる）、自然会話ではもっとくだけてしまう表現も、丁寧みに書かれていることが多くなってしまふのだと思います。また、自然言語と異なり、文脈への依存度が低くなってしまふことから、自然言語では、言い切りの形や表現止めで済まされる表現も終止形になってしまうこともあり、それが丁寧すぎると感じてしまうこともあるかと思ひます。ですから、教科書で提示されている表現はあくまで「基本」として、教室内では文脈に応じてそれを応用して使うという気持ちで使うことが大切だと思います。明らかに訂正が必要な場合は、「実際にはこのように言っている」ではなく、「このように言うことが多いのではないか」と伝えると思ひます。
- ビジネス会話と敬語以外に、日本社会でのマナーや上下関係などの文化的なところはどのように教えていらっしゃいますか。
- マナーについては、日本企業で行われている新入社員マナーを一通り説明、練習し、問題形式で確認しています。文化については十分な時間が取れていませんが、企業文化の重要な点については抑えるようにしています。
- 成績評価はどのようにされていますか。
- 平常点（授業の準備、参加態度、パフォーマンス）、語彙クイズ、オーラルテスト、中間、期末テスト、作成したビジネス文書、発表、プロジェクトへの貢献度、振り返り、など全てを評価対象として成績に反映させています。
- 「心の教育」は具体的にどのような内容でしょうか。
- ビジネス関連の書籍や雑誌を読解教材として、学生2、3名で担当し、語彙表や問題を作らせ、その他の学生はそれを準備してきていることを前提にディスカッションを行っています。内容としては、ビジネスの心構え（時間管理やハウレンソウ）や、サービスの基本となる「おもてなし」や配慮などが中心となっています。
- 実際の会話例などを見せていただき、大変勉強になりました。ただとても難しい（タスクシートに感じも多かったのだ）と思うのですが、事前の自宅練習だけでうまくいくのでしょうか。学生さんのレベルはどれぐらいなのでしょう。
- 学生は、初級修了者で、ビジネス経験はありませんので、ビジネス場面を設定して、易から難、短から長と段階的に進めていき、困難な表現は練習させながら次の段階に移行していくことがコツです。こういった教授ストラテジーの詳細は、『初級学習者のための待遇コミュニケーション教育』（スリーエーネットワーク）をご参照ください。ベテラン教師の技を分析し、まとめてあります。
- 排日的ということで日本人への風当たりは強いでしょうか。日本語教師としての就職は難しいでしょうか。
- シンガポールは基本的に親日的なお国柄ですが、シンガポール人の仕事を確保するために、外国人が雇われにくい政策が強化されています。その上、韓国語ブームもあり、日本語教師のポジションも限られてきたという点で、難しくなっていると思ひます。
- 日本企業への就職は人気がないということは、履修者の目標はどのようなことを求めて学んでいるのでしょうか。
- 政府関係や外資系企業から日本語能力が優遇されることもあるので、ビジネス日本語を身につけたいという目標には変わりないようです。